津奈木

発行所
津奈木公民館
芦北郡津奈木町
電話（代表3111番）
編集　編集委員会
印刷所　旭印刷所
電話（水俣）③4101番

赤崎老友親和会
十年の歩みに想ふ

老友連合会　会長　永松登弥

「老人会を視察したい」と県老連に問合せるとまず赤崎をあげるとかで、昨年度も数多くの視察者が訪れた。その赤崎老友親和会が十周年を迎えて、去る五月二十六日田中県議六車町長を始め十数名の来賓出席のもとに盛大な記念式をあげた。

十年の歩みの跡をふりかえってみると実に真面目に、健実に老人クラブ運営の本道を歩み着々として実績をあげ県下老人クラブの最先端であることが、うなづかれる。この成果の原因を林田会長は「役員の協力と、会員の和の賜物です」と説明されるが、事実林田会長を中心として、役員、会員が協力一致された結果で、その裏には地域の方々の深いご理解とご援助がうかがえるようにも思う。

老人クラブは年々増加の一途をたどり郡内でも五十四を数え全国ではゆうに十万を突破する現状で、正に老人クラブ花ざかりの状態であるが、その内容に至つては、全くピンからキリまでで、会長独裁クラブ、レクレクラブ、踊りクラブ、酒クラブ、はては寝たきりクラブ等々と強い批判も多い中に赤崎クラブの十年の歩みは、老人クラブ運営の四本の基本方針である。

①健康の増進　②教養の向上
③レクレーション　④地域との交流。

を適宜例会の中に取り入れて、うまずたゆまず地味な努力の継続であったようである。

中でも一般に運営上最も困難視されているのは、四の地域との交流である。これは老人会が独走するでなく地域とよく連繋し地域向上の一翼をになつつ、自らも又向上するということで、事実これなくしては老人クラブの真の向上は期せられないのではないかと思う。然し乍ら老人会の性格上この重要な問題が、なかなか円滑に行はれないのが、大方の現状であるが、赤崎に於ては、この点も実に他からうらやまれる位円滑に行つているようである。その原因を考えてみるに「交流を待つ」という消極的な姿勢でなく「交流を進める」という積極的な努力の蓄積が今日の成果をなし得たのではないかと思う。赤崎小の裏の丘に建てられている数々の記念碑、記念塔を見る時、これが老人の手によってなされたのであるかと驚きを感ずるのである。

更に若者や婦人との交流座談会、中卒就職者の激励会、或は地域をあげて参加される慰霊祭等、常に積極的然も継続的であることが特色で、地域の方々の理解協力が生まれるのも又当然のような気がする。

赤崎の某婦人が「老人会が出来てからお年寄りの方々がいそいそとなって、明るくなられました」。との話をきいた時私はなるほどと心温まる思いがした。

今日老人の生甲斐について、いろいろ論議されているが、生きがいというのは、他から与えられるのでなく自らの考えで、自らの力で、創り出すことこそ真の生がいではないかと思っている。そんな観点からして、老人の生がいは老人クラブの活動に直結しているといえるということも全国平均をはるかに上まわる好成績であることが、うなづかれる。

赤崎老友会の例会を見た鹿児島県出水郡の某婦人が、その和やかさ温かさに二目ぼれして、入会を申込んだ。会では役員会を開いて、その婦人の申出を検討し入会を許可した。その婦人は赤崎老友会の一会員となり、会費も会員並におさめ、例会にはつとめて出席するようにしているとかで、これは赤崎ならではの話ではなかろうか。

十周年を迎えた赤崎老友会に深甚の敬意と感謝をささげ、今後益々発展されるよう、祈念する次第である。

新和会
十周年の唄

赤崎老友第一親和会
会長　林田　義人作

おいらが住める ふるさとは
開いたる
導き祖先が 自然のけしき
恵まれた
赤尾島には ここに生れし
辻の峰
吾々は 明治、大正 昭和まで
今日の日を
共にはたらき 楽しくすごす
老の友
同じなかまが 輪をつくり
むすばれて
老友クラブが 十周年
親和会
年月かさね 心そえた
学びや
これぞ吾らの 語る笑顔に
花も咲く
豊かな心で 共に元気で
若がえり
福祉文化に 百までも
包まれて
長寿の途を もろ共に
行こうぞわれらの親和会
また二十周年迎えましょう

地蔵さんめぐり

(一)　堀　二雄

経塚地蔵

泊部落の山本茂吉さん宅のすぐ裏手の孟宗竹山の中にある孟宗竹の株が、風にふれ合うかすかな音の中に、いかにもひっそりとして立つてござる地蔵様と云う感じである。

普通、村はずれや峠にある地蔵でなく、これは墓碑地蔵である。即ち墓碑の上に直経二十糎の蓮華台があり、高さ三十糎位の台堂地蔵の立像がその上にある。墓碑は二段の敷石の上にある、高さも三十糎位横二十五糎位であるが、碑文が不詳明で、奉造地蔵菩薩石像、年十月七日以外は読み取る事が出来ない。

他所の地蔵と異るのは、地蔵墓碑の立つ領域の広いことである。像を中心に角石で囲んで仕切つてある面積が約一坪ある。現在この墓守りをして居られる山本茂吉さんに聞くと、次のような事である。

昔、泊の御番所勤めの人で、西岡と云う人がおられた、その人の子供で四才になる女のお子さんが死なれた。親として早世した吾子の後世の安らぎを祈つて、棺の囲りに四十巻の法華経を埋められたと云う。人がその上を、踏まないように仕切つてあると云うことで、墓前に、水や線香を上げる時山本さんが、その都度供物を脱いで出入りされる意味が漸く分つた。

この地蔵様は、歯痛止め、いぼ取りの願はよく効果があると云われるが、それは地下の法華経のおかげと西岡家の言伝えである。山本さんも十七八年前の頃、西岡家ゆかりの人と逢われ、その人は丸島に住んでおられたが、今は分らないとの事である。

芦北郡史によると、津奈木御番所に文政年間の頃（一八一八～一八二六）西岡濃助と云う人が衛士としていた事が記録されている。

かねていかめしい御番所のお役人も、やはり人の子、可愛いさかりの四才の娘を亡くして、棺の囲りに経文を埋めて娘の守りとされた親心が、しみじみと分るような気がする。

＊　＊　＊　＊



山本茂吉氏と経塚地蔵

体力の向上
スポーツ教室開設

近年町民のスポーツに対する欲求が急激に高まっています。この時にあたり、町民総スポーツ推進の基盤となる。指導者の参集を得て、各種のスポーツ教室を開設して、知識と理解を深めると共に、体力作り技術の向上を図っています。

現在のスポーツ教室

○青年バレーボール教室
期日　毎週火、木、土
場所　津小体育館
時間　午後八時～十時迄

○老人ゲートボール教室
期日　毎週土曜日
場所　町民グランド
時間　午前九時～十二時



老人ゲートボール教室での実技練習

次期スポーツ教室

○婦人バレーボール教室
期日　八月より

○青年卓球教室
期日　八月より

○野外活動指導者養成教室
期日　八月より

○一般バトミントン教室
期日　九月より

参加申込は公民館にどうぞ



（来た時よりも美しく）青年バレー教室後の清掃

私の座右銘

一、私の座右銘
二、それを選んだ理由

竹永脩人

一、心訓（福沢諭吉の言葉）
二、人生の指針を明確に示しており心の伴侶となる。

永松登弥

一、水竹是生涯
二、水は万物を公平にうるおし、器には従いながら岩金を通すその偉大なる力。スクスクと伸びる素直にして、節度ある竹。なかなかむつかしいことですが、せめて時折は、そんな気持になれないかと思っています。

永里吉香

一、努力と言葉は惜しんではならない。
二、但し、悪い目的をたくらんでの努力は身を傷める。人を悪みそしる言葉は己に釘を打つものだ。

ほたるがいたぞ!!
下流にはいなくなった

岡松先生がもう津奈木にはよほど山里に行かねばお目にかかれないかなあーと思っている矢先、バレーボールの練習が終り帰宅途中、車の中からあの優雅な点滅の動きを発見し、アッ!!ホタルがいたぞ!!"とつい声を発し、入うれしく思った次第です。

そういえば「螢雪」の故事も都会では、ネオンに負けてなる。その後は生命のメカニズムの光」に一人が泣くと続いて一人と、あちらからも、こちらからも、ついにハンカチが全員の目頭と鼻頭に。こんな光景は水辺のほたると共に見られなくなったようだ。

日本のほたる

日本の水棲ホタルは清流の中で、九ヶ月の幼虫時代を送り、五月に陸に上がる。砂にもぐってマユをつくる。四十日のサナギ生活ののち成虫になる。その後は生命のメカニ

岡松先生がもう津奈木にはホタルがいなくなってしまったかと思い、ホタル見たさに自宅から町中橋まで二～四回出かけられたが、あの青白い明滅をついに発見することができなかつたと残念がつておられた。

津奈木川の主流ではご多分にもれず、ここも農薬などによる川の汚染でいつしかホタルも、てしまった。今では見られなかつたのは、教育委員会が昨年度から実施されている各種目のスポーツ教室に積極的に参加し練習の結果で、本大会でウルトラプレー、珍プレーの続出が多かつた事は大変嬉しい事です。今後支部団員の交流を多くし、よりいっそうの団活動に頑張つてほしいと挨拶があり「笑わせた賞」「すべつた賞」など数々の個人表彰があり、大会は無事終了した。私達はこうして仲間と手を取りあい文化、スポーツ活動を推進し明るい町作りに微力ながら頑張つています。

総務部長　上村幸一

おしらせ

青年団夏期キャンプ研修を八月二～三の両日大口市奥十曾の谷、川ありの自然林にて開催します。なお教育委員会より野外活動について実技指導があります。参加希望の方は教育委員会まで申込み下さい（電話にても可）

『連合青年団結成五十周年』記念事業

十月四日、土曜日午後六時より津小体育館にて、統一劇場団（東京）の"今日もどこかで"を公演します。次号館報にてあらすじをお知らせします。

寄贈御礼　伊藤俊夫氏

七月九日、中尾部落、歯科医師伊藤俊夫氏より、津奈木町公民館に、故伊藤まち子氏の記念として、百科事典ジャポニカ全二十三巻、及びスチール製書架一基（総額拾万円相当）御寄贈下さいました。

ここに謹んで厚く御礼申し上げます。



伊藤俊夫氏とジャポニカ全巻、書架

団体役員（二面より続く）

上下門　坂本えみ子・坂口　愛子
倉谷・平松　昭子・下田キヨノ
大泊・西　滋子　津奈木スミ子
町中・松本　チホ・千々岩順子
桜戸・元村あけみ・白坂　久子

平国校区婦人会役員

会　長　鬼塚妙子
副会長　長浜サチ
会　計　長浜久子
書　記　吉野ミエ

赤崎校区婦人会役員

会　長　尾花みづの
副会長　開田ミキコ
副会長　吉野ヒサエ
副会長　岩崎シマ子
生協係　岩崎ミツ子
生協係　諫山和子
会　計　佐々木チサ子

連合青年団役員

団　長　野崎憲章　平国
副団長　福田三継　福浦
副団長　竹田京子　上下門
総務部長　上村幸一　赤崎
体育部長　福田　豊　福浦
副部長　野崎恵子　平国
副部長　新立秀之　大泊
文化部長　上村里智子　赤崎
副部長　福田千賀子　福浦
産業部長　新立　広　大泊
副部長　上村恵介　平国
レクリ部長　林　賢二　倉谷
副部長　村上義広　平国
広報部長　西平久雄　川内
副部長　長浜芳子　平国
生活部長　中島春美　町中
副部長　浜田しのぶ　平国
事務局長　岩崎安志　赤崎
監　事　斉藤　誠　赤崎
監　事　山下やよい　町中

第九回―津奈木町連合青年団―
支部対抗バレーボール大会

昭和四十一年に始まつた支部青年団対抗のバレーボール大会は、今年度で第九回目を迎えました。

去る六月五～七日の三日間、津小体育館にて団員百二十名が参加し、終始白熱した試合が展開され、千代支部が二年ぶりに優勝し通算五回目の栄冠を勝ちとり、準優勝は赤崎支部、昨年度優勝の平国支部は三位となりました。

本大会より、全支部総当りのリーグ形式となり、例年にない熱戦熱援で会場内は青年の"若い心と力"がふれあい、館内には熱気がムンムンとあふれていました。

閉会にあたり、野崎団長より「年々団員の技術が向上し、本年度ほとんど反則プレーが

青小年防犯交通安全懇談会

婦人会主催　回巡部落

婦人会では、夏の防犯、交通安全月間を前に、七月十四日から二十六日迄各部落を巡回し、交通事故での加害者と被害者側の物質的精神的に悲惨な記録映画と、戸じまりを中心とした防犯映画の二巻を上映し、駐在所の上田巡査と担当の民生委員、公民館の伊藤社教主事より各立場から交通安全、防犯について話があり、特に上田巡査は、町内の今年度事件発生(事例)の話をして頂き、今後の住民総参加の交通安全、防犯につきまして御指導いただきました。

七月二十一日から八月三十一日まで各学校、夏休みですので、なるだけ親と子の対話の時間を作り、子供の非行防止、事故防止に町民皆様方の暖かい御指導をお願い致します。尚夜にもかかわらず各地で多数の御出席ありがとうございました。

会長　山口享子
青少年補導員
磯見勝次
林田輝幸
山口享子

以上の方が補導員として努力しておられます。

郷土出身者紹介

ふるさとに寄せて

大口市　千々岩忠興



千々岩忠興氏

ふるさとを離れて二十年近い歳月が流れましたが、一番多感な少年、青年時代を津奈木で過ごした私にとって、ふるさとの思い出は、今でも生々と甦ってまいります。先日津奈木の実家の古いタンスの中から、クタクタになった一幅の書を見つけました。『興国在育善士』の六文字の雄渾な筆致に感動し、特に『善士』という言葉に惹かれ、早速表装して毎日眺めています。

戦後の日本には、戦前、戦中以上に精神的な荒廃を至るところに発見して危惧の念で一杯の此の頃です。津奈木はその恵まれた美しい自然環境の中から数多くの善士を輩出しました。津奈木の教育文化、産業は、これらの善士によって築かれ、育てられてきました。そういう意味で、美しい自然と共に、私達の大きな誇りであり、財産であり、私達はそれを受け継ぎ守り、育てる責任を痛感しています。同封の館報を拝読し、数多くの善士によって立派に守られ、育てられておりますことを、郷土出身者の一人として大変力強く、嬉しく感じました。

先日久しぶりに、重盤岩に登りましたが、相変らず素晴らしい鳥瞰に心がはづむのを禁じ得ませんでした。文明の激しい波は、自然をも変えてしまいそうないおいです。

重盤岩の毅然として姿らぬ男性的な美しさは津奈木のシンボルであり黙して語らずとも善士のごとき風格すら感じます。絵は小学校時代から好きで、現在も描いています。死ぬまで描き続けたいと思っています。最近カメラにも熱中、大口市の文化財を、しらみつぶしに撮ってまわり、アルバムが百冊を越えました。毎日体力づくりに、愛車(自転車)でよく走ります。今年四十七才、職業は有限会社福田商会(本店水俣市)の役員(常務)で大口支店の遊技場の経営に当っています。商売は苦手で専ら金にならない仕事に没頭しています。

霊台橋　通潤橋

史談会の視察旅行

史談会員は六月二十五日梅雨のさ中、雨は天にまかせて予定通り決行、出席者十九名一行は先ず砥用町にある国の重要文化財「霊台橋」を見学した。何日も交通がとだえる大水のときの住民の不便を救わんために造られたという由来記を書いた石碑が建っている。教育長や須佐美武氏の周到なる資料準備によって、石橋の宝庫に入った感じがした。

矢部町の有名な通潤橋について、江藤公民館長の説明によって、布田翁の苦心をしのんだ。五郎ヶ滝の直下五十米増水による豪快さは、行きあわせた我々のみが見得た姿であったらう。



霊台橋のたもとで……うしろには
清正公を杞つた石のほこらが見える

昭和50年度　団体役員

津奈木町

呉竹老友会連合会

会長　永松登弥
副会長　林田義人
副会長　椎葉閏二郎
監事　村安則

呉竹老友会地区会長名

地区クラブ名　会長名
内野老友会　松原兼義
倉谷　〃　竹永庄市
川内　〃　下川寅吉
上下門　〃　谷口重義
古中尾　〃　山崎直次郎
中尾　〃　緒方孝行
竹中　〃　鶴野満真
染竹　〃　伊藤一高
浜崎　〃　福島末喜
桜戸　〃　山口三郎
町中　〃　志崎鳥末
浜　〃　西川三好
小津奈木　〃　永里勝人
大泊　〃　椎葉閏二郎
赤崎第一　〃　林田義人
赤崎第二　〃　吉野藤寿

津奈木校区婦人会役員

会長　山口享子　大泊
副会長　宮崎哲子　川内
副会長　川村静子　古川
会計　磯見千恵子　浜崎
書記　津奈木スミ子　大泊

部落婦人会役員

部落　委員　班長
浜崎・津奈木スミ子　浜本宗子
川内・下川優子・前田秀子
古川・川崎ツルエ・岡下秀子
新川・川崎清水・六車千恵子
染竹・福山まさえ・松田初江
内野・田上富江・豊田秀子

以下四面に続く

順不同

大成功、運のよか時アこうゆうもん
大成功、腕と度胸が損させん
済まん、親の死目も合わんでな
大成功、美化運動の花畑
大成功、あのモソコスば説き伏せた
済まん、あアたばかりイなんかけて
済まん、心で媽におがみおる

拙者

大成功、阿呆よ馬鹿よと言われたが
大成功、偽せドン腹が利いたふう
済まん、子供の貯金ひっつかいい

双岳

済まん、俺ぼっかりほめられて
済まん、後始末までしてくれて
大成功、一人も違反な出んだった
大成功、天下晴れての新世帯

一平

肥後狂句選

堀双岳　次題

ふりむいて、じいっと、

五句以内、八月末まで、公民館へ。

⊙お願い、矢太郎さん、子路さん、ご住所のお知らせを。

矢太郎

無駄を省く実行

生活改善の実例

倉谷　婦人会

「病気見舞いのお返し改善運動」

病気中に、お見舞いを受けると、若し先方に病人が出た時に、こちらからお見舞いするのは当然の事ながら、全快したら、先方に病人が有る無しにかかわらず、倍かけて派手なお返しをする傾向がありますす。これは先方の御好意に却てそむく事になり、経費も無駄な事ですので、倉谷婦人会では、無駄を省く運動の一つとして、現在病気見舞のお返しを止めています。実行しやすい身近な事から、一つ一つ確実に実行しようと話し合い今後も続けていきたいと思います。

金言名言

名言は人生に対して不思議な力をもつ、ある時は、人を教え導き、ある時は、人を励まし慰める。

オギャッとこの世に生を受けると、カミタテからお神酒が出る。死んだら死んだで、夜伽の酒とくる。喧嘩も酒からなら、仲直りも酒でというのが世のならい。所詮酒は人生と離れられないものかも知れないが、

「過ぎたるは及ばざるに如かず」

で、酒さえ呑まなかったらと、いくら「臍を噛む」でも追いつかぬはめになるのも酒あるがためである。

でも、好きな酒はやめられんもので、

「酒は百薬の長」

と言ってみたり、

「酒なくて何のおのれが桜かな」

と言っては一杯やりたがる。

次の詩などは、全く酒の愛好家には堪えられない名句だ。

酌酒与君君自寛　人情翻覆似波瀾

(酒を酌んで君と与にす。君自ら寛うせよ。人情の翻覆は波瀾に似たり)

久しぶりに君と一杯傾けるのだ。今日だけはくつろいでやってくれ。当今の人情は上下変転して常なく、まるで波乱に似ている。つまらん世事は忘れようではないか。

どうも酒好きが酒のことを書くと酒礼賛になっていけません。



国内研修　ハクション会結成に思ふ

郡青協文化部長　寺本信介

千葉にある社会教育施設ですが、ものすごく進んでいました。中央コミュニティセンター一つを見ても、四階に温水プール、柔・剣道場、六階体育館、十階には、総合検診施設など、千葉で一番大きい建物とのことで、僕達も流行にびっくりしてしまいました。三階までは、ショッピングセンターです。買物をしに来た人々が、そのまま、いろんなスポーツ、文化活動を楽しめるようにとの目的で建られたものです。しかし、見学しているうちに、いろりがなく、庭石、灯籠なども全てプラスチックという茶室や、四角いコンクリートの部屋の中に、ピアノだけポツンととり残された様な音楽室を見て、ガックリしました。茶の心、音楽は、どこかに置き忘れてしまい、行政側が、画一化された部屋に、その表面だけ持ちこんでもいけないと思うのです。物質面での豊かさが、必ずしも精神的なそれには結びつかないと感じました。

最後の研修日には、十月に開館された県美術館を見学し、千葉市幼外に在る貝塚の中に建てられた、加曾利博物館を訪れました。そこで、縄文時代とも言われる葬られた人骨の化石を見て、現在の繁栄が、数千年にもわたる、長い人類の歴史の遺産である事を、改めて感じさせられました。しかし、高度に高められた生産力は、必然的に公害を生み出し、それと共に、人間には、画一化された、単調な単純作業を強いることとなり、逆に人間が、機械に使われる様になりました。そのため、自分の創意、工夫を全く生かせず、つまらなく感じました。



その様な、経済構造の中で、我々青年にも無関心、無感動、無気力等の三無主義に落ち入って、ゆがめられたレジャーや法外的な遊びで気をまぎらわし悪の道にはいる人も多いと思うのです。

考えてみますと、青年運動している人は第一に、孤独からのがれて、友達を作ろうとする願い、第二に「どうせ、まじめにやえても、世の中どうにもならない」という様なゆがめられた青年の願望を見つけたし、青年の求める本当の願いを意識し、身近にある社会の矛盾に立ち向かいたいという気持が、あると思います。青年団等の社会教育団体でも今後はレクリエーションの積極的な意味での活用も必要になってくると思います。それと共に、活動の中で、ややもすると、リーダーにだけ重くかかりがちな仕事を、責任分担する事で、その人独自の人間性を生かし、かつ啓発してゆくべきです。活動の中に、その人の創造性を発揮させてゆく事と"喜ばれたい"という、人間の社会性から来る感情との二点が、意欲を培ってゆくと思います。そして、自分が正しく判断する力や、個人としての自主性をもった青年が、いろんな青年団活動の中で作り上げられてゆくべきではないでしょうか。

僕は、今でも事前研修で、先輩がユーモアを交えながら話して下さった言葉の一つ一つが、なんと力強く輝いていたかを忘れることができません。本当に研修を自分なりに生かして、頑張っていらっしゃるなあと感心しました。今後、風邪をひき、クシャミがでてチョット気が弱くなった時など「ハクション会」のみんなの顔を思いうかべて"鳴呼俺の事、うわさしてるな、よし頑張るぞ!"という気持で研修で得た事を自分なりに生かしてゆきたいと思います。

他での会合、町内新聞、祝日、こよみ(夏至、七夕など)

次に拡声機を町内の要所に設置し、町民誰でも聞けるようにする。

『有線放送だ。声を太らせろ』となるように考えてみようではありませんか。(岡松)

芦北郡特殊学級育成会発足

"みなさんの理解と協力を"

芦北郡内の小学校六校と中学校五校に、恵まれない児童生徒のための特殊学級があるが、昨年十月、それ等の児童生徒に理解と協力援助をする会=芦北郡特殊学級育成会、(会長甲斐恒雄、副会長古賀三夫、緒方軍紀)が発足しました。発足以来八カ月になるが、郡内大方の理解と協力により、賛助会員も八百名に達し、この児等のため、明るい明日が約束されるものと関係者を喜ばせているが、更に一層郡内各町民の方々の理解あるご協力を念願している。なお正会員は特殊学級在学児童生徒の保護者で、賛助会員は本会の趣旨に賛同し、年間一口百円以上拠出した人。

申込みは特殊学級設置校ならば、いつでも受けつけることになっています。

有線放送の利用法

黒電話がすみずみまで普及したいま、これまで通話の用をはたしてきた農協の有線放送は不用となった。

いま、この有線放送を設置するとすれば数千万円を要するだろうが、これを不用だと放置するのはまことに知恵のない話である。

かといって、テレビ、ラジオとは喧嘩にはならない。しかし、これを維持するなら、何としても良いアイデアを考え出さねばならない。私はこんな事を考えてみた。"聞かねば損するようなこと"を放送する。

死亡者、結婚、落し物の紹介、お尋ね、公民館その